

Agentless Management Service (AMS) を ご使用時の注意事項

iLO 7 を搭載した Express5800 シリーズおよび iStorage NS シリーズでは、Agentless Management Service (以下、AMS) は iLO 仮想 NIC (VNIC) を用いて iLO と通信します。VNIC 経由の通信には、iLO のアプリケーションアカウントが必要です。

アプリケーションアカウントの作成を行わない場合、OS 起動(サービス開始)毎に iLO アカウント情報(ユーザー名、パスワード)を設定する必要があります。

Standard Program Package を適用後、もしくは AMS インストール後に下記の手順を実施し、アプリケーションアカウントを作成してください。

Starter Pack Version S8.10-014.01 にて AMS 4.20.0.0 をインストールし、アプリケーションアカウントを作成済の場合はあらたにアプリケーションアカウントの作成は不要です。Standard Program Package を適用後、後述の AMS の利用状態を確認し、AMS が『OK』となっていることを確認してください。

* * ご注意 * *

- ✓ iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントメニューからアプリケーションアカウントの削除(ゴミ箱アイコンを押下)はトラブルシュート以外の目的では実施しないでください。アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。
- ✓ OS の再インストールを行う場合は、アプリケーションアカウントの削除を実施後、OS の再インストールを行うようにしてください。詳細はトラブルシューティングをご確認ください。

0. TPM Visibility の設定 :

本アプリケーションアカウントは、アカウント情報を安全に保存するため、Trusted Platform Module (TPM) を使用します。そのため、アプリケーションアカウントの作成を行う前に、以下の設定を行います。

<ilo_username>および<ilo_password>には、iLO アカウント情報(ユーザー名、パスワード)を入力します。

- (1) POST 実行時、<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
- (2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options へと進みます。
- (3) 以下のオプションを『Visible』に設定します。

TPM Visibility : Visible

- (4) <F10>キー、または<F12>キーを押下し設定を保存し、システムの再起動を行います。

1. アプリケーションアカウントの作成：

amscli コマンドを使用して、アプリケーションアカウントの作成を行います。

(1) 以下を実行し、アプリケーションアカウントの作成を行います。

- Windows OS の場合：

コマンドプロンプトを開き、"¥Program Files¥OEM¥AMS¥Service¥" のパスへ移動し、次のコマンドを入力し実行します。

```
# amscli appaccount create -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

- Linux OS の場合：

コンソール端末を開き、次のコマンドを入力してください。

```
# amscli appaccount create -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合：

ESXi / ESX Shell より、次のコマンドを入力し実行します。

```
# /opt/amsv/bin/amsvCli appaccount create -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

(2) プロンプトに戻り、以下のメッセージが表示されていることを確認します。

- Windows OS、Linux OS、VMware ESXi / ESX OS 共通：

Account created Successfully.

または、

Application account successfully created in iLO and stored in TPM.

(3) iLO Web インターフェイスにて、アプリケーションアカウント登録内容を確認します。

- 左メニューより「iLO 設定」を選択し、「ユーザー管理」 - 「ユーザー」へと進み、アプリケーションアカウントメニューに「AMS」が登録されていることを確認します。



iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントメニューからアプリケーションアカウントの削除(ゴミ箱アイコンを押下)はトラブルシュート以外の目的では実施しないでください。アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。

(4) AMS の利用状態を確認します。

iLO 仮想 NIC (vNIC) を使用して、AMS と iLO が通信可能であることを確認します。

- 左メニューより「ダッシュボード」を選択し、ホストの概要にて、AMS が『OK』となっていることを確認します。



＊ ＊ご注意 ＊ ＊

AMS の状態が『OK』になるまで、数分から数十分かかる場合があります。

数十分待っても AMS の状態が『OK』に遷移しない場合は、以下の手順をお試しください。

iLO リセット

AMS のサービスの再起動

OS 再起動

< iLO リセットを行う方法 >

左側のタブより「iLO 設定」-「クイックアクション」の「iLO をリセット」を実行します。

< AMS の再起動を行う方法 >

- Windows OS の場合：

Windows の管理ツール サービス "Agentless Management Service"を右クリックし、再起動します。

- Linux OS の場合：

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
```

```
# systemctl restart amsd
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

トラブルシューティング

1. アプリケーションアカウントの作成時、応答がなくプロンプトに戻らない。

< 対処方法 >

iLO 仮想 NIC (vNIC)が有効になっているかをご確認ください。

iLO 仮想 NIC (vNIC)の確認方法については、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。

2. アプリケーションアカウントの作成時、下記のメッセージが表示された。

Application account successfully created in iLO and stored in TPM.
However, AMS service could not communicate with iLO using the generated Application account.
Therefore, AMS service will temporarily use the supplied iLO credentials.
iLO credentials may need to be supplied again when the application and system restarts.

< 説明 >

アプリケーションアカウントの作成には成功しましたが、作成したアプリケーションアカウントを使って、iLO と通信できていない状態です。この場合、作成時に入力した iLO の認証情報を使って一時的に iLO と通信可能になりますが、OS を再起動した場合は、iLO との通信が行えず AMS が利用できなくなります。

< 対処方法 >

(1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。

(2) OS 上で以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :

```
# amscli appaccount delete
```

- Linux OS の場合 :

```
# amscli appaccount delete
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

```
# /opt/amsv/bin/amsvcli appaccount delete
```

(3) アプリケーションアカウントを再度登録します。

3. アプリケーションアカウントの作成時、下記のメッセージが表示された。

AppToken creation failed.
Therefore, AMS service will temporarily use the supplied iLO credentials.
iLO credentials need to be supplied again when the application and system restarts.

< 説明 >

アプリケーションアカウントの作成に失敗し、iLO と通信できていない状態です。作成時に入力した iLO の認証情報を使って一時的に AMS が利用可能となる場合もありますが、OS を再起動した場合は、iLO との通信が行えず AMS が利用できなくなります。

< 対処方法 >

- (1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。
- (2) OS から以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :

amscli appaccount delete

- Linux OS の場合 :

amscli appaccount delete

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

/opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete

- (3) アプリケーションアカウントを再度登録します。

4. TPM Visible の設定を『Hidden』に設定したい。

< 対処方法 >

- (1) 本アプリケーションアカウント機能は『Visible』設定することが必須条件です。
- (2) 『Visible』設定にできない場合は、OS 起動毎に以下のコマンドを実行してください。

- Windows OS の場合 :

amscli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>

- Linux OS の場合 :

amscli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

/opt/amsv/bin/amsvCli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>

5. RBSU : TPM 2.0 Operation の設定の『Clear』を実行した。

アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。

< 対処方法 >

- (1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。
- (2) アプリケーションアカウントを再度登録します。

6. BMC Configuration Utility : 『Set to factory defaults』を実行した。

アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。

< 対処方法 >

(1) OS から以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :

amscli appaccount delete

- Linux OS の場合 :

amscli appaccount delete

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

/opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete

(2) OS からアプリケーションアカウントを再度登録します。

7. OS を再インストールしたい。

OS の再インストールを行う場合は、以下の方法でアプリケーションアカウントの削除を実施後、OS の再インストールを行うようにしてください。OS の再インストール後に、再度アプリケーションアカウントを作成してください。

< 対処方法 >

(1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。

(2) OS から以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :

amscli appaccount delete

- Linux OS の場合 :

amscli appaccount delete

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

/opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete

(2) OS 再インストール後、アプリケーションアカウントを再度登録します。